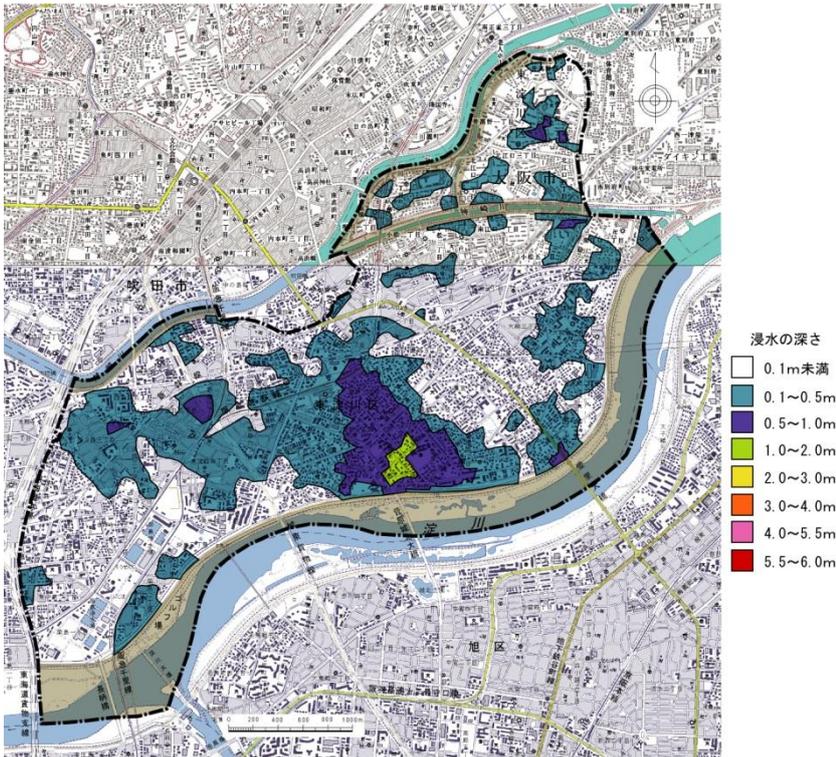


③内水氾濫

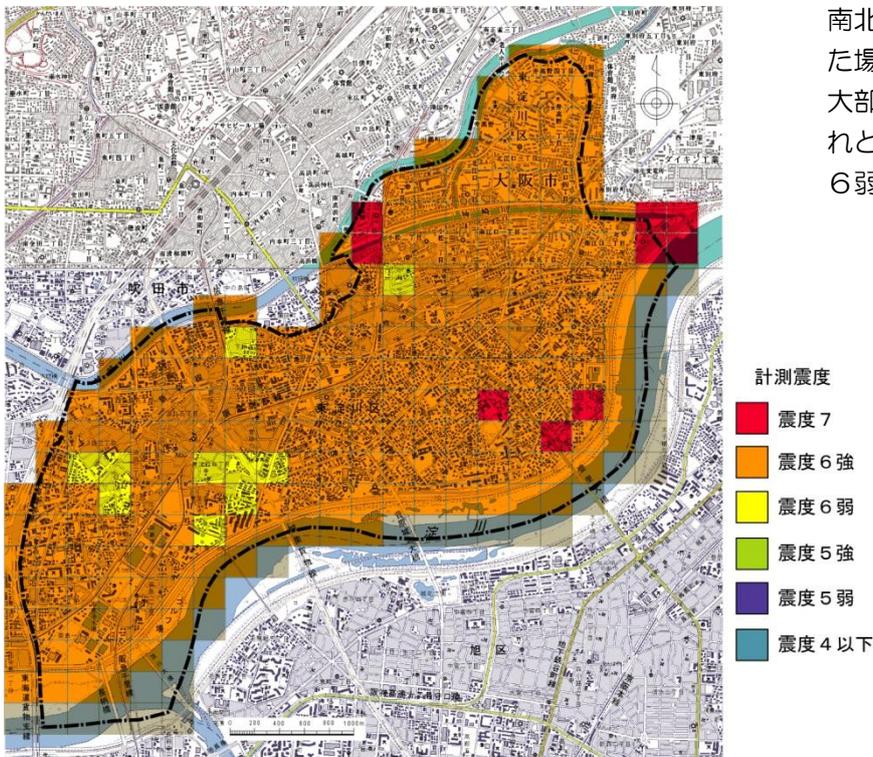


作図) (株) ランドシステム研究所、岡本 茂

内水氾濫予測図によれば、最も浸水深の深い箇所は、南部の淀川沿いのごく一部の区域で、1.0m~2.0mの浸水深となっている。これを取り巻いて、0.5m~1.0mの浸水深の区域が分布し、この外側に0.1m~0.5mの浸水深の区域が広がるほか、東部や北部および南西部の一部などにもみられる。

(2) 地震予測

①震度予測

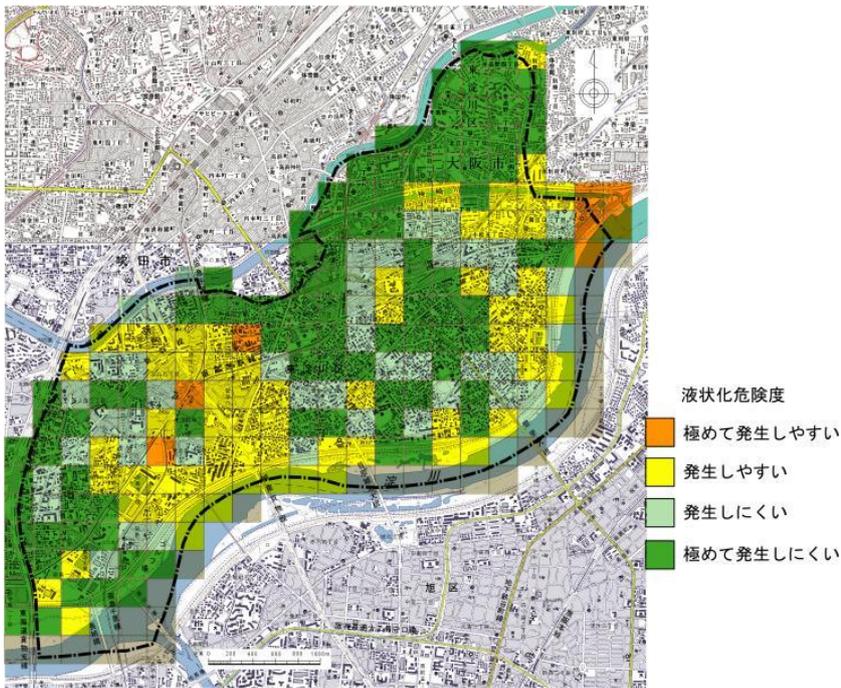


作図) (株) ランドシステム研究所、岡本 茂

本地区は、地区の西部付近を南北に通る上町断層が活動した場合の震度予測図によれば、大部分の土地が震度6強の揺れとなり、一部に震度7や震度6弱の箇所がみられる。

②液状化予測

図 液状化予測図



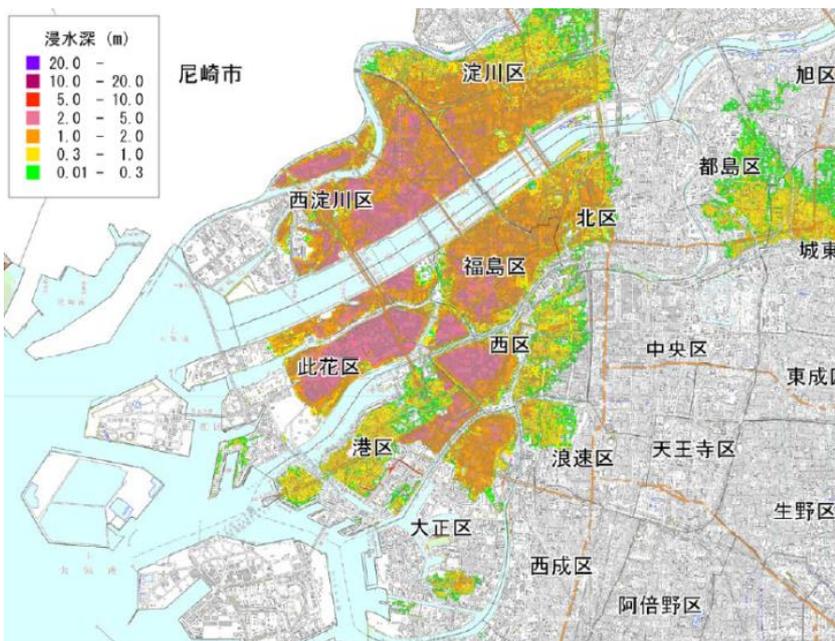
地盤の液状化は、土地の地下に堆積する地層の性質により、発生しやすい土地と発生しにくい土地がある。一般に、液状化は、未固結の砂・泥などの沖積層等を中心に発生するが、特に発生しやすい箇所は、未固結の均質な砂でできた砂層が比較的厚く、かつ地下水位が高い所で発生しやすいといわれている。

本地域では、地下の砂層等の分布から、東部および中西部付近で発生しやすい、と予測されている。

作図) (株)ランドシステム研究所、岡本 茂

③東海・東南海・南海地震の予測

図 津波浸水予想区域図(暫定)



平成 24 年 8 月に、内閣府から発表された中間報告によれば、これらの地震が連動して発生すると、大阪市付近は震度 6 強～6 弱の揺れが発生し、大阪湾付近には 110 分後に、5m の津波が到達すると予測されている。

この内容を受けて、大阪市危機管理室から、大阪市域の津波浸水想定区域(暫定)が公表された。

これによれば、西大阪地域が津波の被害を受ける予測となっており、東淀川区の近傍付近まで浸水する予想となっている。

資料) 大阪市危機管理室